希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

14日現在

労災保険 遺族請求始まる

震災で行方不明の人が亡くなったと推定して、労災保険の遺族請求や未払い賃金の立て替え払い申請を受け付ける手続きが始まった。労災保険は、業務中または通勤中に被災し、行方不明になった人の家族が請求できる。

震災で行方不明になり、勤めていた企業も倒産状態になった人の家族は、未払い賃金の立て替え払いを申請できる。この場合は震災発生日に退職したとみなされ、退職から6カ月以内に申請する必要がある。各地の労働局や労働基準監督署が相談に応じる。

〈岩手〉
◆労災の相談＝岩手労働局労災補償課☎019・604・3009◆未払い賃金の相談＝同監督課☎019・604・3006
▽盛岡労基署☎019・621・5115▽宮古労基署☎0193・62・6455▽釜石労基署☎0193・23・0651▽花巻労基署☎0198・23・5231▽一関労基署☎0191・23・4125▽大船渡労基署☎0192・26・5231▽二戸労基署☎0195・23・4131

〈宮城〉
◆労災の相談＝宮城労働局労災補償課☎022・299・8843◆未払い賃金の相談＝同監督課☎022・299・8838
▽仙台労基署☎022・299・9071▽石巻労基署☎0225・22・3365▽古川労基署☎0229・22・2112▽大河原労基署☎0224・53・2154▽瀬峰労基署☎0228・38・3131

〈福島〉
◆労災の相談＝福島労働局労災補償課☎024・536・4605◆未払い賃金の相談＝同監督課☎024・536・4602
▽福島労基署☎024・536・4610▽郡山労基署☎024・922・1370▽いわき労基署☎0246・23・2255▽会津労基署☎0242・26・6494▽白河労基署☎0248・24・1391▽須賀川労基署☎0248・75・3519▽喜多方労基署☎0241・22・4211▽相馬労基署☎0244・36・4175

交通

■JR

JR東日本管内の全線と、北越急行線など一部鉄道を自由に乗り降りできる「JR東日本パス」が11日から利用できるようになった。有効期間は1日で、料金は大人1万円、子供（6歳以上12歳未満）5000円。新幹線を含む特急の普通車自由席が乗り降り自由で、予約すれば普通車指定席が2回まで利用できる。また、エリア内の「駅レンタカー」を割安料金（Sクラス1日3500円）で利用できる。第1回の利用期間は20日まで、第2回は来月9～18日まで。購入できるのは利用開始の1カ月前から前日まで。

東京までの東北新幹線「やまびこ」号に通常料金の約半額で乗車できる「やまびこ自由席片道きっぷ」は13日で販売を終了した。

■バス

〈岩手県北バス〉☎0194・654・5814
盛岡―久慈1日2往復、盛岡―宮古同12往復。宮古―盛岡南―東京の夜行バスも運行。

〈岩手県交通〉☎0194・654・7755
花巻―仙台は5日から3往復に増便。気仙沼・一関―池袋、釜石・陸前高田―池袋、大槌・釜石・遠野―池袋の夜行バスを運行。

〈ミヤコーバス〉☎0222・771・5310
仙台―気仙沼・石巻・福島・相馬、本吉―志津川。

〈JRバス東北〉☎0222・256・6646
6日から花巻・北上―仙台の運行再開。

〈東日本急行〉☎0222・218・3131
仙台―盛岡・一ノ関・登米市役所前・栗原市金成庁舎前など。

〈仙台空港鉄道〉☎0222・707・2235
仙台空港―JR名取駅で代行バスを運行。

〈福島交通〉福島支社☎024・531・2706、郡山支社☎024・943・1651
福島―南相馬、郡山―福島―盛岡など。

Q&A

Q 避難所で本が必要になったら？

A 毎日新聞社や出版団体が図書を贈る運動をしています

児童図書については、毎日新聞社と、財団法人大阪国際児童文学館などが展開している「いっしょだよ」キャンペーンで対応しています。学校や幼稚園、保育所、児童館、地域文庫などが対象ですが、避難所も、閉所後に学校図書館などに移管するのならOKです。詳しくは同文学館（☎06・6744・0581）に問い合わせてください。

一般図書については、出版3団体などが3月23日に設立した「〈大震災〉出版対策本部」が避難所への寄贈を続けています。広報委員長の坂本隆さん(61)によると、出版各社から寄せられた約15万冊を東京都内の倉庫にストックし、これまでに約3万冊を避難所などへ贈ったそうです。

「未就学」「小学校低学年」「同高学年」「中高生」「一般」の五つに分け、約40冊ずつ箱に詰めて送っています。代金、配送料は無料です。

「本はもちろん、送ってくれた人と触れ合えるのもうれしい」と感謝されたことも。坂本さんは「本が皆さんの心の安らぎにつながってほしい」と話します。

希望者は、はがきに受け取り責任者の氏名と送付先の住所、電話番号、人数、年齢構成を書き、〒162－0828 東京都新宿区袋町6 日本出版クラブ内〈大震災〉出版対策本部へ。【柴崎達矢】

ミニニュース

■音楽CD寄贈先を募集

日本レコード協会（北川直樹会長）は、東日本大震災被災地の避難所やコミュニティーFMの中から、音楽CDの寄贈先を募っている。

同協会は、1963年から福祉施設にレコードなどの寄贈を始め、これまでに約99万枚を贈っている。今年度は「音楽を欲している被災者へ」と、追加で避難所やFM局などに寄贈する。

希望するFM局や避難所は、協会への申請が必要。問い合わせは、同協会広報部（ファクス03・6406・0522▽メールtoiawase@riaj.or.jp）。締め切りは22日、発送は6月末ごろを予定。

■無料ヘアカット

化粧品会社「日本ロレアル」は「被災地の美容師による被災地での無料ヘアカット」を実施している。16日は9～17時、宮城県気仙沼市の気仙沼中1階会議室で行う。同市内で被災し、店が再開していない美容師がボランティアで生徒や教諭、被災者の髪をカットする。

保存食品の支援を

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■遠野まごころネット

（岩手県遠野市）☎0198・62・1001 tonomagokoro@gmail.com http://tonomagokoro.net/

保存食品の支援を 岩手県大槌町の二渡稲荷神社避難所では、今も65人の被災者が生活している。神主さんによると、電源が限られているため、食品を保存する冷蔵庫を増やせないでいる。

すでに延長コードがタコ足配線の状態で火災の危険があり、さらに食品が傷むなど衛生面の心配もある。神主さんは「このままでは避難所の閉鎖も考えなければいけない」と話しているという。

缶詰（肉、魚、果物）▽乾麺▽カップラーメン▽野菜ジュースなど。送付先は同ネット（〒028－0541 岩手県遠野市松崎町白岩薬研淵10の3）。

■共同支援ネットワーク

（仙台市）kyoudounet@gmail.com http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

引き続き支援物資を募集 沿岸部の避難所や仮設住宅への支援物資を募集している。いずれも新品で。事前に共同支援ネットにメールで連絡を。

〈食料品〉▽食用油▽ごま油▽緑黄色野菜▽果物▽缶詰（果物、魚、肉）▽カップラーメン

〈生活用品〉▽ペーパータオル▽子ども用おむつ各サイズ▽ボックスティッシュ▽新品の子ども服（80～140㌢）

〈家電〉▽電子レンジ▽空気清浄機▽除湿機▽扇風機▽地デジ対応型テレビ▽延長コード▽掃除機▽ドライヤー

事務局ボランティアスタッフを募集 宮城県石巻市桃生町の現地事務局で、ニーズとボランティアの調整、事務、電話応対、庶務などを担う事務局ボランティアスタッフを探している。長期間活動できる方、資格は問わない。メールで事務局に連絡を。

ニーズ情報

■ふくふくプロジェクト

（福島市）☎024・526・4533 project@fukushima.com http://www.f-npo.jp/

中型・小型の動力噴霧器、ノズル、ホース求む 「エコクラブだて」（福島県伊達市）が、南相馬市のがれき撤去作業の際に使う噴霧器やノズル、ホースを求めている。

廃材とヘドロが悪臭を放っているため、酵母菌、乳酸菌などを活性化させた溶液をまいて悪臭を抑え、作業しやすい環境作りを進めている。問い合わせはエコクラブだての遠藤さん☎024・583・3263へ。

伝言板

全自動洗濯機 送ります

▼岩手県大船渡市末崎町大浜の民宿海楽荘さんへ　熊本市の嫩（ふたば）英子さん(69)が捜しています。嫩さんは卓球（ラージボール）の選手で、05年に大船渡市で開かれた「全国スポレク祭」出場時に海楽荘に泊まりました。タイの生き作りやアワビなどお刺し身が豪華で、地元の若者もドラム缶でサンマやアワビを焼いて歓迎してくれ、思い出深い土地です。

「経営者の方の名前はわかりませんが、『あんないいところなかったねえ』と当時の仲間と話しています。何度か電話しましたが、つながりません。消息を電話（096・384・2901）にご連絡ください」

×　×

▼全自動洗濯機送ります　神奈川県厚木市の徳永嘉彦さん(68)が、全自動洗濯機1台を被災した方に無料で送ります。ナショナル（現パナソニック）製のNA－F42M3で、洗濯・脱水容量は4・2㌔。乾燥機能はありません。約2年前に購入。03年発売で生産終了しています。「説明書はありませんが、操作はわかりやすいです。住所、氏名、連絡先を書いて自宅にファクス（046・229・1237）を送ってください」

▼洗濯機の提供者ぞくぞく　洗濯機が壊れかけて困っていた酒井美津子さん(39)＝茨城県土浦市＝に、神奈川県大磯町の石黒さん(53)が全自動洗濯機1台と扇風機2台を送ってくれることになりました。「ありがとうございました」と声が弾んでいました。

イベント

演歌キャラバン隊　日本音楽事業者協会は歌で復興を支援する「演歌キャラバン隊～歌が結ぶ心の絆　歌おう明日へ！」を14日からスタートさせた。次回は18日10～11時に宮城県川崎町前川名号下山の前川小学校青根分校体育館で、14～15時に同町今宿猪ノ沢のみやぎ蔵王セントメリースキー場スキーセンターでステージがある。出演者は中村美律子さん、三船和子さん、香田晋さん、松村和子さん、愛田健二さん、西方裕之さん。入場無料。今後も北島三郎さん、森進一さん、坂本冬美さんらが各地でステージを開く予定。

ボランティア

◇がんばっぺ！岩手

大槌川ボランティア募集　ふるさと清掃運動会実行委員会（委員長・王貞治ソフトバンクホークス会長）が、岩手県・大槌川の清掃ボランティアを募集している。

大槌川はサケの遡上（そじょう）で知られるが、津波で多くのがれきが打ち上げられた。再びサケがさかのぼれる美しい川を取り戻そうと、2泊3日のバスツアーを実施する。現地の要請で、引っ越し支援や泥かき作業をしてもらう場合もある。

7月8日22時半に東京都千代田区一ツ橋1の毎日新聞社を出発→9日朝大槌町着でボランティア活動→夜は花巻温泉泊→10日は中尊寺を見学し、20時に東京帰着。費用は1万8000円。問い合わせと申し込みは事務局☎03・3212・0035へ。

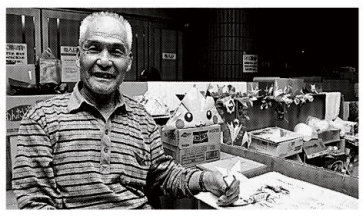
声 被災者から

これからも忘れないで

8カ月前に改築した宮古市の自宅を流された堀内鉄雄さん一家

岩手

8カ月前に改築した宮古市の自宅を流され、5月末に同市の住宅に移り住んだ無職、堀内鉄雄さん(63)「震災後すぐ孫（弥月君、7歳）を保育所に迎えに行きました。その後は自宅から高台に逃げましたが、避難誘導してくれた人は流され、遺体で発見されました。知人のってで住む家が見つかり、避難所を離れました。恵まれていますが、きずながある地元に帰りたい。離れた地域や外国の人も支援してくれています。これからも震災を忘れないでほしい」【久木田照子】



「折り紙を覚えたよ」と話す松本実さん

福島

原発事故で福島市あづま総合体育館に家族で避難している葛尾村の元大工、松本実さん(72)「避難所の生活はやることがないどころの話じゃない。何もしないでじっとしていると頭がボーッとしてきて、おかしくなりそう。働いているよりはるかに疲れる。放射能の影響が早く収まってほしい。帰ってもいいという言葉を聞いたら、涙が出るくらいにうれしいと思う。住めば都で、自分のいたところが一番いいとこなんだな」【内田久光】

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

＜岩手県＞
県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。
◆県VC　☎019・637・7594　サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中
◆遠野市VC「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可
◆宮古市VC　☎090・4478・3984　個人、団体とも1週間前までに電話連絡を
◆陸前高田市VC　☎090・2852・9736　できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡
◆大槌町社協VC　☎080・3518・8490　5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞
各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。
◆仙台市VC　☎022・231・1326　5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み
◆石巻市VC　☎0225・23・6015　10人以上の団体は要事前連絡
◆気仙沼市VC　☎080・5949・7475　10人以上の団体は3日前までに事前連絡
◆名取市VC　☎022・784・3029　団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市VC　☎080・5949・7501
◆岩沼市VC　☎080・5949・7541　8人以上の団体は要事前申し込み
◆東松島市VC　☎0225・82・9812　車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを
◆亘理町VC　☎080・5949・7719　団体は要事前申し込み
◆山元町VC　☎080・5949・7720　要事前申し込み
◆七ケ浜町VC　☎090・6853・4490　団体は要事前申し込み
◆南三陸町VC　☎080・2055・1066　県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞
◆県VC　☎024・522・6540
◆相馬市VC　☎0244・36・7827
◆南相馬市VC　☎0244・24・1877　公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を
◆新地町VC　☎0244・62・5577　要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市VC　☎0246・22・5501　団体は要事前申し込み

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連　0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会　0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時）

●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）　0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）　0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険　※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会）　0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）　0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市　高田町鳴石　0192・54・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎　0226・46・2600
＜福島県＞
広野町　FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　0120・38・2119
大熊町　会津若松市追手町第2庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町　県男女共生センター（二本松市）コールセンター　03・5638・5055
葛尾村　旧法務局会津坂下出張所　0242・83・0271

★一時立ち入り受付センター0120・208・066　警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時

三陸物語 Sanriku Monogatari

全盲の鍼灸師 藤原正さん❷

裏通りで「お母さーん」

大津波が迫る岩手県大槌町。携帯が不通で妻美幸さん(43)、母久子さん(76)と連絡が取れないまま、藤原正さん(53)は避難を決めた。長女幸乃さん(16)と三女美代乃さん(14)が自転車で先に荷物を運び、藤原さんは次女知代乃さん(14)の肩につかまって後を追った。

「生死を分けた偶然」の二つ目はここで生まれた。一家は津波の避難先を「おばあちゃんの家」と決めていた。しかし、藤原さんは娘たちに地域の避難所である高台の寺の名を告げた。何かを考えた末の決断ではなく、「とっさの思いつき」だったという。だが、結果的におばあさんの家は津波にのみ込まれた。

歩き始めると、避難を呼びかける防災無線が聞こえたが、周囲は普段よりも静かに感じた。

三つ目の「偶然」は、分かれ道で生まれた。表通りか裏通りか。藤原さんはここでも「思いつき」で裏通りを選択する。

同じころ、夫の身を案じた美幸さんは自転車を走らせていた。娘が家にいるのを失念していた。そして、普段使う表通りから裏通りにハンドルを切る。これが「四つ目」だ。美幸さんは弱視で、離れると人の顔がはっきり見えない。「地震で人が道に出ていて、ぶつかると危ないと思ったから」という。

知代乃さんと一緒に逃げる藤原さんと、美幸さんの自転車はJR大槌駅近くですれ違った。藤原さんは見えず、美幸さんは弱視に加えて余震に気を取られていた。遠ざかろうとした時、知代乃さんが声を上げた。「あれっ？　お母さーん」。美幸さんの生死を決した瞬間だった。

今度は知代乃さんが自転車で先行し、夫婦で歩く。その時、聞こえた。「サーサー」という波打ち際のような音。津波の第1波は、堤防を越えて駅の近くに迫っていた。

【萩尾信也、写真も】

◇

「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。

藤原家の面々。左から長女幸乃さん、双子で次女の知代乃さんと三女の美代乃さん、藤原さん、妻美幸さん＝大槌町内で11日